

水源禪師法話集 59

(2016年9月18日 大阪合宿2日目)

2017年1月25日

一乗禪の会



目次

水源禪師法話.....	3
上下差別なく、横に永遠に、全宇宙に向かって難を救う観音様、阿弥陀様.....	3
ミャンマーのインレーレイク.....	4
お釈迦様が3つの法(身随観、法随観、受随観)を残したミャンマー.....	4
世界中の寺を巡り、法随観に辿り着き、そこには「念彼観音力、釋然得解脱」あり.....	6
水源禪師の最もご縁のある、宝生仏、カクサンダー仏、そしてお釈迦様.....	8
お互い宇宙人にしか見えない現代人とアマゾンジャングルの人は、同じDNA.....	9
過去も現代もいつでも魔に変身、その行先は地獄界へ.....	9
「念彼観音力、刀尋段段壊」「念彼観音力、波浪不能没」「南無観世音菩薩、、」.....	10
観音様によって私達は能く空を観て浄化する、それには絶対的な帰依がなければ.....	11
法を持ったお坊様が出れば、その国は助かる.....	12
テレビもないけれど法のある国、かたや法のない国、アメリカは殺戮そのもの.....	13
新幹線.....	14
「八正道の一つ正見、正しく観る」=「善心、不善心」.....	14

水源禪師法話

上下差別なく、横に永遠に、全宇宙に向かって難を救う観音様、阿弥陀様

まあ昨日、結局三蔵法師が、自分は今までお経を読んで法を得たと思ったけれども、全くその魔女を救う力がなくて、今まで修行した(事が)全く役立たない、と。せめてこの命を絶って霊になってこの魔女を助けに行く、と。まあこれは、これはちょっと反するのだけどね、お釈迦様の教えから。やっぱりこの戯曲だからこう書くけれども、まあ人間はグワーッと凄いものだと。まあ、それで金剛棒でバーンと打って命を絶って、金の虫になって飛んでくわけですね、サーッと。その霊界のこの魔女を救う為に。まあどんなその悪女であっても、地獄に落とすよりは自分の命を絶ってでもその霊界に行き行って救いに行くという、結局慈悲の心の実践をしたと。

で、観音様が出て来て、その柳の杖、(の事を)英語ではsceptre(セプター)と言いますね。こうよく、こういう何か杖あるでしょう？杖ではなくその法を持ったsceptreという神との交信というか、全ての力を発すると。ところが、東洋ではこう観音様がこう棒を持って8つの葉っぱが出る様にそれでスッとやれば全てが叶うと言う。それで三蔵法師がまた孫悟空の背中に乗って、また人間に生き返ると。だから結局は、孫悟空は殺してないし、その三蔵法師はその魔女を結局助けに行き行って、まあ生き返ったと言う事で。と言う風に観音様はこの現世の世において何時でも皆さんを「救おう、救おう

としているわけです。

で阿弥陀様は、彼岸の国って言った方が良いかも知れない。彼岸の国でお待ちされてそこで皆さんが完全に涅槃の国に行かれる様に、涅槃に達する様に、そこでまた修行させる最高の宇宙の道場を持っているわけですね。で、観音様と阿弥陀様は一体化しているわけです。

という風に、まあ学説的にはね、その一体化、こういう風にお話して、「はい、皆さん分かりました。納得行きますね」、それでおしまい。で本当にそうなのか？と。実際に本当にそうなのかな？と。という風な詳しい話は、まあ教典ではそう書いているのだけれども、誰も解説する人はいないでしょう？今、詳しく。

で、実際にね、私が阿弥陀の国を観る事が出来なくて、非常に驚いて長時間坐り、その時はまだ力もあったから。そしたら観音様がお出ましになって、その阿弥陀様を観せてくれるのですね。サーッと。ここに乗っています。それはまあ、仏像がちっちゃく乗っていると表現しているけども、まあそんな形ですけども、カルーナの小さい鳥。カルーナ、火の鳥。スーッと降りて来て、阿弥陀の立像が現れました。だから阿弥陀様の本当の色は火の色で、それから不動明王様の火の鳥あるでしょう？あれをカルーナって言います。カルーナ。メッタ、カルーナ、慈悲。

だから、どんな状況に置かれても、あなたの慈悲の心があれば、何時でも観音様が現れてその難を救います。上下に差別無く、また横に永遠に、こう全宇宙に向かって。そういう凄い、凄い菩薩様です。まあその阿弥陀の国に行けば、まあ軽やかな音楽、私に合った音楽がサーッと流れて、天界からは花が散り。まあまあまあ表現は出来ないけれども、一番表現に近いのは、やっぱり阿弥陀経に書いているお経の通りで、それを私が読んでそれを分かったわけではなく、後で分かるわけね。読んでみたら、「あっ、同じ状況だ

と。で、阿弥陀の国に行ったら必ず孔雀が迎えに出てくれるのですね。スーッと。

ミャンマーのインレーレイク

だからインレーレイクにね、非常に有名なお寺があるのですよ。水、水、湖の上に。で何時の時代か分かりませんが、遠い昔に湖の上にそのお寺があつて、そこには 200 軒かな？ 200 の村落が水の上に立っているわけです。でその湖の家は、あっちこち全て船で通っています。で水の生活で魚を育てたり捕ったり、それからその湖の上で畑を作って、でトマトを作って、町に交易したりという。で、もう超有名なお寺なのですね、ミャンマーでは。まずそこにずうっとその船で行く時には、なんと鳥が立っているわけです。鳥が水の上にバーンと立って、という風に西本願寺の奥殿に行ったら、必ず孔雀がいますよ。何か奥殿に、絵に描かれている中に、その阿弥陀の国の状況の中に孔雀が何故か立っているでしょう？ まず孔雀がお出迎えになります。迎えに来てくれる。「良く来ました

と。

でその私の観た阿弥陀の国は、やっぱり水の上の宮殿なのですよ。何故か。清い水の上。そしたらインレーレイクの水の上にそういう風なお寺があるわけなのですよ。「いやー、これは凄い。阿弥陀を信仰する方は是非そこに行つてほしい。

と、そう思いました。そしたら何と台湾の偉いお坊さんが毎年莫大な寄付をこのインレーレイクのお寺に寄付しているみたいです。やっぱりこの方も、「なるほど現世の世においての阿弥陀を具現化しているお寺だ。」と。ミャンマーの方はあんまりはっきり分からないけれども、私達大乘の人間にとっては凄い事になるわけです。

何故そこに行く事が出来たかと言ったら、パオの道場は、本部ですよ、本部。ミャンマーで最大のお寺なのです。2000 人の比丘とサヤレー達が修行しているから。南伝には比丘尼がいませんからサヤレーになります。でそこにもう結局パオ・セヤドーの清浄道論が具現化されるわけですね。法随観で。結局、宿命通と言う過去も観られる。それから天眼通と言う未来も観られる。それから四無量心と言うブラフマビハーラ、四梵天住とも言います。それをやれば全宇宙全て観えます。

ま、そういう事で教典に書いてある事が具体的に観える人、通過した人が 200 人位いるらしい。だからそういう事で確固たる物なわけですね。ミャンマーでは。一人二人ではなく。ただし、それで皆それにチャレンジするわけです。ミャンマーには 100 万人のお坊さんがいると言います。ただし 2 年で辞める。1 年で辞める。クルクル回るけども。10 年となったら、私 10 年目ですけど、極端に少なくなります。で 20 年となったらもっと少なくなるみたいですけども。

という風に、まあそういう事で、皆一旦はお坊さんになって修行僧になって、その後還俗してまた社会で働いてお寺に寄付するという。でその体験する事によって修行が如何に難しいかという体験して、また有り難いと言う事が分かるわけですね。

お釈迦様が 3 つの法（身随観、法随観、受随観）を残したミャンマー

それでやっぱり世界的には非常に珍しいです。というのはミャンマーには結局 3 つの法を持っていたわけですね。2 つ半と言えば良いね。マハシの身随観とパオの法随観。と、後はゴエンカさんの、レディーセヤドーの本当の教えは、結局比丘に教えてから伝えなきゃいけないけど、結局出て来なかったわけですね。それで在家の様に、ゴエンカさんの先生何て言ったかな？（参加者；サヤジ・ウバキン。）あつ、ウバキン。ウバキンさんが結局法を保つてちょうど死ぬ前にその在家でありながら、その前の人を農家の人だったわけです。で農家の人に繋いでウバキンさんに繋いで、このウバキンさんと言う凄い方で高校しか終わって

なかったけども、家の都合で、財政難で。で政府の方に働いて、やっぱり凄い瞑想法で、もう国を任された位な方で。

でそのゴエンカさんは凄い大富豪でね、世界中歩けるわけですよ。それで、ただしこれは不思議な事なのです。超大金持ちは必ず何処か超重大な病を持っているわけ。これは本当の話。あなた達は、その私は何故かそう言う人に出会うわけ(笑)。だから実態が、「あっ、同じだなあ

と。でこのゴエンカさんはね、強烈な頭の痛みでもう頭を潰して欲しい位の痛みを感じるはず。(参加者;偏頭痛)そう。それで日本にも来られて、それからヨーロッパにも行かれて全世界回ったけれど治らないわけ。それでサヤジ・ウバキンさんの所に行って、そして修行したら取れたわけ。「ウー、これは凄い事だ

と。

でこの時に私が、スリランカで 80 歳になる瞑想の先生がとても驚いて、私の修行の進み方見て本を渡してくれたわけです。そしたら結局バンガまでは達するけれど、それ以上の行法は書いてないわけです。どういう風に達するか？サンカーラ・ウペッカそれから涅槃、それで。でもこの間には、サンカーラ・ウペッカは結局 11、7 と。宿命通、天眼通の上にあるわけですね。でその前にやらなきゃいけない教科が結局ナーマ、ルーパの教科があります。それをはっきり観たらそれがどういう事かが分かるけれども、そうでなければ過去の瞑想修行によってそれを達する事があると思います。ただしそれをずうっと続けていけば、私が現象が分かるから、サンカーラ・ウペッカの 11 段の悟り。それからもっと先の涅槃を垣間見る事も出来ます。ただしこれを体験してない、ご指導される方は、結局明快に書いている先生方の本はバンガでおしまい。それ以上は書いてないです。何故かと言ったら、指導書を私が受け取ったのです。貰って、「これは是非・」、でそれとテキストと「すぐゴエンカさんに会って下さい

と。その時もう彼は高齢で巨大な組織でしょ？そこに入って私はまた政治闘争みたいな事起こしたくないし、ただ私は静かにいきたかったから、まあご遠慮してすぐカナダの方に帰ったわけです。

でそれで問題が発生したのは結局、在家用のその悟りの第 5 段階までは正式に行きますけど、それ以上は無いわけです。6、7、8、9 と。宿命通は 9 になるはずですが。確かその教科ありますけど、後で。

でそういう風に、でも結局パオの法随観、それからマハシ・ヤンゴンの身随観、それからゴエンカさんのその受随観があるのですけれども、私がちょうど法随観やっていたから、ちょうどそれが何を意味するかスーッと行ってしまうわけ。で禅の心随観は菩提達磨(達磨大師)さんが持って来て 3 つしか無かった。過去には 4 つあったかもしれないけれど。これはお釈迦様がね、確か 2 回バガンの所に来られて、それからもう 1 回はそのパオの近くのモーラマインの所に来られたわけです。お釈迦様が。スリランカには確か 3 回。ミャンマーには 3 回。そして、キングアショーカがアラハト(阿羅漢)を 2 人置いたみたいです。ミャンマーに。



世界中の寺を巡り、法随観に辿り着き、そこには「念彼観音力、釋然得解脱」あり

そう言う事でこの宇宙の法則が滅法にならなくて、昔は三回何とかって言ったかな？結局、正法、弘法それからシーラ(戒律)のこの1500年で、お釈迦様から1500年、500年500年500年で消滅すると大乘では考えて。だからその後、法は伝わらないと。ところが、前正法、後正法で1000年でしょ？で前弘法、後弘法で2000年。そして全部そう言う風にやれば実は5000年になるわけ。でお釈迦様が死んでから2500年。南伝の方では正法、弘法、シーラ(戒律)、それから布施、で教典500年。でもう一回正法のヴィパッサナーの時代に入ったと。

で韓国の方でもお坊さん方が、非常に興味があるのはヴィパッサナーなわけですね。突然ヴィパッサナーと言う、過去のそう言う見方があるのは知っていたけれど、実際にやると言う事で。大体その中国、韓国の方は、達磨大師様が持って来た心随観一本で行っていますね、ずうっと。何故かと言ったら、結局私が体験したこの法随観はまさに、その私は絶対教えられないと思った位の教科があるわけです。ただ私の先生の指導のお陰で、コツコツと訳も分からなくただ、ただ、ただ坐って何故か善財童子と同じ様に私ももうお寺、お寺。中国の全お寺、日本のお寺、韓国のお寺、チベットからそれからモンゴリアからカンボジア、タイ、インド、スリランカ。グルグル、グルグル回されて最後に行った所がパオ。パオのこの法随観を持っているお寺に着いたわけです。と言う風な事でやっぱり、ひしひしと私は回りながら、そのやっぱりね、何年も外国の見知らぬ町を国々を変えながら山超え(笑)、谷超え陸路でずうっと回っているものだから、まあまあ命を落とさずによく回ったものだと、何年も(笑)。やっぱりその天界の力を感じますね。ずうっと見守られていると。

で私は何時も、何故かと言ったら、数珠を持って「南無観世音菩薩、南無観世音菩薩」

何時もずうっと唱えます。何か気持ちが悪くなったら。でずうっと廻って歩いて、でその観音様が、この結局西遊記の最後に出て来るでしょ？で、もう一回経典を開けた場合に読んでみたのですよ。この『妙法蓮華経観世音菩薩普門品偈』と言う(経典を)。その中で一つ二つ三つ目の最後の方、「念彼観音力 釋然得解脱」と言う、これ当然びっくりしてね。いやー、私がいつもその「般若心経は観音様そのものである」と言っている様に、それをどれ位唱えたか分かりませんが。まあそれをちょっとちゃらかして「観音様、観音様、観音様で(笑)、クルクル、クルクル回して、あの30分で3000回終わりますからね。ドゥーッと。それで気持ちがスーッと良くなるし。

まあそれで「念彼観音力 釋然得解脱」と。この「釋然」と言う言葉は、「自然」と言う言葉あるでしょう？「自然」。これが「釋然」と書かれていますね。お釈迦様の「釈」と「然」。(お釈迦様の悟られた解脱を得られると言う事だと私は解釈しましてね。それでこれは「釋然(シヤクネン)」と書いていますね。でも、今の現代では釈然(シヤクゼン)としない、と発音します。

何故か？釈然としないと言うのはスッキリしないと言う。だから「釈然」はスッキリすると言う事なの(笑)。でこの言葉が何処から出たかも誰も分からないし、それ以上の解説も無し。ただここに「釋然」として、「釈然(シヤクゼン)」と日本語ですね、今は。この教典では「釋然(シヤクネン)」になります。「然(ネン)」という。で「然」は「燃費」の燃の火偏が抜けているのではないかな？と私は思ったけれども、まあそれは別として。

結局中国ではよくその西遊記に、「西にある国、須弥山の彼方、今のカイラス山の彼方に牛とそれから宝石の国がある」と。そこに三蔵法師を無事に到達されるために「宝勝仏」と言う。「宝勝」はね、「宝」と「勝つ」。いやー、この発音は多分ね、私達が思っている宝と生まれる宝生仏の事ではないかと。調べたら何処も出て来ないわけ。それでどうも本当に釈然としないな、スッキリしないと。釋然じゃなく(笑)。そしたら何と同じ事ですって。ただ漢字が違うだけで発音、一緒の同じ仏であると。でまた多宝仏とも言うらしい。

だから当然皆さんがね、いっぱい教典読んでも頭がこんがらがってしまうわけです。それで結局現象として観た場合には、結局阿弥陀様が、慈悲の塊の鳥が集まって阿弥陀になるわけですね。だから結局、いつもその阿弥陀の国に行く時には、入る前に鳥が現れます。だから、こういう句があります。「阿弥陀、阿弥陀、皆阿弥陀。あら、不思議。全ての鳥がまた阿弥陀」と言う句がありますよ。そう言う句は読んだ事ありますか？そうでしょう？で、「そよ風吹く風、西風かな東風。吹く風皆阿弥陀」になるの。風自体が阿弥陀、と言う句があります。これはね、結局誰かが観ているわけです。阿弥陀の事を。実際に一生懸命修行して。

で、私はいつも「念彼観音・・・」、観音をお祈りして、ずうっと数珠を持って何か気持ちが悪くなったら、まあマントラみたいなものですね。そしてずうっと旅して歩いて「釋然得解脱」。解脱の法随観を受け取ったわけですね。解脱を垣間見たと言うか。で皆様にまあその方向を指導しているわけです。そのお陰で受随観、それからカーヤヌパツサナーの身随三つの力のお陰で全てスッと通過、観せてくれたわけで。



水源禅師の最もご縁のある、宝生仏、カクサンダー仏、そしてお釈迦様

それでお釈迦様の四念処、サティパターン、これは本物であると。南伝、非常に明快に書いています。で北伝の四念処を見たら、ちょっと理解不能な、結局さっき言った様に「宝勝仏、漢字の当て字なのかどうなのか。発音は一緒だけれども、私達は一字違えば全く違う様に考えていますから。それで調べて結果、実は同じ事であると。と言う風に体験上、全くその通りと。

で宝生仏様の事は南にいて、いつも宝を与えてくれる仏だと。それで私が洪水に遭った時に宝生仏が現れたわけです。スツと。どうして分かるのか？って。もうこのエリアになったら阿闍仏(あしゅくぶつ)、宝生仏それから薬師如来ってすぐ分かるわけです。いっぺんにバーンと心に来るから。何故私がお金とは関係ないこの宝を与えてくれる宝生仏が現れたのだらうと。南の方に。そして、なんと(笑)、そのインレーレイクね。特にカクサンダー仏陀のお寺と言うよりカクビハーラと言うらしい。ミャンマーでは、西の方から入って行ったわけです。

そしたら、それはカクサンダー仏陀ですよ。そしたら、私の姿が鏡の様にバーン！と非常に明快に、大きい白牛。で私が瞑想して、「私は実はカクサンダー仏陀を18代前にこう牛車に背負いながら歩きました

と言う事を言ったでしょう？白牛がバーンと出て来ましたね。頭下げた瞬間に。だから、仏が涅槃に達したらもう関係ないと言うのは、私にとっては合いませんね。そして、最後に南から上がって行った仏が、なんとお釈迦様、ゴータマ・ブッダ。それで合点が行くわけです。

だから西遊記は、三蔵法師が西に向かって、それをいつもお守りしているのが宝生仏だと。ゴータマ・ブッダの教典を受け取りに行ったわけです。じゃなければ、完全に空想の話になってしまう。でこれを「経典で証明しろって言われても証明のしようがないし、500年前に書かれて作者は誰々と色んな論争があり。で実際に玄奘大師が実際に今から1200年前に結局、天竺に向かって行ったでしょ？だから、そう言う風にそれを元にして書いた空想物語である

けれども、実に沢山の現実的な、結局スミア・カルチャーの事も入ってみたい。昨日説明した様に。

お互い宇宙人にしか見えない現代人とアマゾンジャングルの人は、同じDNA

そう言う風に、一仏教の教典だけでは解説出来ない、もう現代の世の中になっています。特に今から50年前はね、人類史は5000年しかないから。でホモサピエンスは3万年前に現れたと、突然。その前はネアンデルタール、北京原人。ところが、今はもうDNAを追跡したら、ミトコンドリアと言う女性だけが持っている遺伝子ですね。それをスーッと行ったら、どうもアフリカから出て来て20万年前に発生していると。現代の私達全ての人間、背が小さかろうが高かろうが…。マサイ族は2メートル、アフリカ。それから一番小さい人間はフィリピンのフローレス人間と言う3尺ちょっと。だからそこには絶対に一般人は入れませんね。何故かと言ったら、病気になって死んでしまったら大変でしょう？で、多分この人達は体が悪いのだろう、と。でDNA調べたら、全然悪くないと。で裸、着物一つも着けない。で着物着けなくて、その小さい人間達は非常に未開な人達だと私達はすぐ思うでしょう？まあ確かにそういう物質的にはそうかも分からないけれども、アマゾンのジャングルに行ったら、今でも紐一つも着けませんよ。でも、その人達が町に出て来た時にはちゃんと服、着ています。ジャングルに入っていったら全部脱いでしまう。

そう言う風に、そういう大きい人、小さい人、全て同じDNA。で、そのアマゾンの奥地にいる、そういう人達も同じDNA。ただし私達は会う事が出来ない。こういう町に出る人は会いますけども、そういう人達に会ったらこの人達はすぐ全滅してしまうわけ。その病原菌とかそうじゃなくて文化的にもう頭がやられてしまうし。で彼らは彼らで小さい中でちゃんと生活しているわけですね。私達は私達の機械文明だから、全く合わない、合わない。全然合わない。もう見ただけで、宇宙人同士が見ている様な感じ。感情も何も。

過去も現代もいつでも魔に変身、その行先は地獄界へ

ま、そう言う風に結局、三蔵法師がそう言うたくさんの妖怪のいる国を廻りながら、と言う劇的に。ま、本当にまさに妖怪にしか見えない様な色んな村、町を通過。昔はね、人肉を食うのは平気だったから、食べ物がないから全世界そうでした。と言うのは、St. Francis Assisi (アッシジのフランチェスコ)と言う偉大なカソリックのお坊さんがね、ある酒場に入って行って「赤ちゃん達よ、その樽から出ておいで」と。そしたら、その死んだ豚の肉のはずが、人間の赤ちゃんになって出て来たわけ。これ本当の話ですよ。ちゃんと書いています。キリスト教のそう言う St. Assisi の伝説の中に。

だからパプアニューギニアの、今のインドネシアのエリアに行ったら、この酋長はね、体中に入れ墨して「私はもう食欲が無い」と。「いつ死ぬかも分からない」と。ただし、「生首を見たら食欲が湧いて来るから、生首獲って来い」と。と言うのは結局、そういう昔の国では動物も難しいわけ、ハンティングして獲ると言うのは。全ての動物だって殺されたくないし、それで弓と矢で獲ると言うのは非常に難しいわけですよ。今は幾らでも肉が手に入りますけど。だから、お釈迦様の時代でも、ある鬼女、鬼の女という。この人は子供生まれたらそれを食べるわけですよ。「美味しい、美味しい」と。でお釈迦様が「もう止めなさい」と。「何故食べるのか」と。「この味が良い」と。「じゃあ、この果物、ザクロか何かこれを食べなさい」と。「同じ味です」と。

だから私達はいつでも魔に変身してしまいます。魔に変身してしまいます。今私達は文明で絶対にそういう事は起こらないと思っているでしょ？でプーチン大統領が非常に腹立てたのは、そのシリア戦争今起こっていますけれど、そこで反対派と言う人が結局人肉を食べる

わけですね。腹裂いて、肝をパーツと食べてる所を見せるわけですね、テレビでですね。日本では見られないでしょう？もちろんあっちでも見せないけれど。プーチン大統領が非常に怒り狂って、「私達は文明を持っているはずだ」と。「この文明を持った私達の現代に何故こういう、もう悪魔みたいな事を出来るのか」と。特にウクライナ戦争で内戦起こっていますけれど、結局死んだ人間の臓器を盗って何処かに売るみたいですよ。と言う風な魔もいれば、同じ人間がまた聖人にもなるわけです。どっちでも転ぶわけ。全てはこの心にあると。

で私達がこうして動物を愛し人を愛し、これは、全てこの慈悲は観音様の慈悲が滔々と流れて、「そっちの方に来て下さい」と。進化して行くと。じゃなければクルクル、クルクル回ってまたそう言う悪夢の中で生きて行く。大変な事ですよ、あなた。もしそう言う実態で夜な夜なそう言う事を体験しながら、もう死んだってまたもっと酷い凄惨な悪夢見る事になるからね。生きてそれを夜な夜な見るのも、もう地獄界。死んでもまた地獄と。

と言う事を私、ずうっと前の法話で話したでしょう？その結局、兵隊さんが殺したくないのに上官の命令でやった時に、もうその 20 歳になるサマネーラが実は過去が観えるわけです。夜な夜なもう必ずや悲鳴が聞こえるわけ、仲間の。強烈なそのイメージが出て来るから。それで、宿命通が無くてもその過去は観えるわけ。パッ、パッ、パッ、パッと。その阿頼耶識(アラヤシキ)の余りにも凄惨なイメージがパッと出て来て、夜な夜なそれに苦しめられる。新しい生命体であっても。

だから絶対にこの人は悪い事をしません。でも、この苦しみはもう生きている間続きます。ただし、その生きている間、もう全身全霊で良い事ばかり、人の為に尽くし、そして愛の力、慈悲の力を強める事によって少し揺らぐ。もしまた人間として生まれる時に仏国に生まれた場合にはチャンスがあるけれど、下手して仏教の無い国に・・殆ど仏教が今ありませんけれどね。特に未来は特に無くなる。もうだから自分がそう言う立場に立っても、殺されても、逃げ出すか殺された方がまだましなわけ。慈悲の無い世界から慈悲のある世界を自分で作り上げる事がもっと大切なわけです。

「念彼観音力、刀尋段段壊」「念彼観音力、波浪不能没」「南無観世音菩薩、、」

その慈悲をじゃあ、どういう風にして作り上げたら良いのかと。これが皆さんにお渡ししたこの『Sammādiwvhi Sutta (正見経)』になります。でまあ、あんまり飛んでも困るので、もう一回もう一つ。その前昨年、「刀尋段段壊(とうじんだんだんね)」、「念彼観音力(ねんぴかんのりき) 刀尋段段壊」と言う。結局 2250 年前にホータンの国の妙善と言う王女が、結局観音様のアバターになって、補陀落(ふだら)島に今居られますけれど。この方が余りにも信仰して、王様のお父さんが怒って、結局罪を着せて刀で首を断とうとした時に、こう言う「刀尋段段壊」が発生したわけ。と言う歴史的な事実らしいです。

二番目の中で。そしてそのちょっと前の。で二番目のその項の中で「念彼観音力 波浪不能没(はろうふのうもつ)」とあるわけですね。二番目の項の二番目の・・下から二番目の「念彼観音力 波浪不能没」と。観音様をお祈りしていたら、嵐の中でも船が沈まないよ。私とその昔ダライ・ラマ様の仲介した時に、その Toronto の西本願寺のお寺に、その時にベトナムから船で逃げて来た難民の方が居るわけです。で非常に仏教に熱心で、それでその方に「どうして、ああいうベトナムの海を越えてインドネシアまで辿り着いたのか」と。「殆ど海に沈んでしまいませんか？」って。「そうなのです」と。「その船には 150 人乗って水も何も無く、もうただ流されて何時沈むか分からなかったです」と。その時に熱心に『南無観世音菩薩、南無観世音菩薩』それだけ唱えた

と。結局ベトナムは二つあります。大乘とそれから上座仏教の南伝。でも、ベトナムの方は何故か大乘が強いです。で、ずっと南に行けばカンボジアの関係で南伝がありますけれども。それで「皆一心に拝んだら無事にインドネシアの難民地に着いたと。

私もカイルス山で命を落とす所でしたのですね。やっぱり、6200 メーターの山を越える時に。谷を一人で越える時に。ガイドも何も無し。それから、もう百仞の谷で、一步間違えばアイスバーンだから滑らしてそれでおしまい。でも、やっぱり感じましたね。観音様の写真を撮って、そしてそれを登り切って、で空は晴天で。でもね、雪を降らさない様に天を持ち上げていると言う感覚はありました。で、ずうっとこういう summit(サミット)ですね。こう、山の峰。立って、向こうの谷の丘に着く手を掛けた時に雪がズラッと落ちて来た。これがこのね、ちょっと10メーター前でも命おしまい(笑)。

本当に今思えば無謀中の無謀して来たわけですけど。その写真もお渡ししましたね、カイルス山。あの写真は誰も撮った人いない筈ですよ、現代において。まず、第一に入れない、その山には。もし、結局、資格無しに入ったら、必ず命落とすので誰も入れません。ただ私の場合は奇跡的にその資格が有ったわけですね、分からずして。で私は行きたくなかったけれど引っ張られて行って、まあまだ生きているわけですね。何故その資格が有るかと言ったら、そのカイルス山を12回、回った方は13回目に入れるらしい。私はそれを1回、回って2回目なわけだから必ず死ぬ筈だけれども、その年は私の成年で、60歳で、その時に回った時には1回、回ったら12回に数えるらしい。で、2回目で13回。問題無しと。

と言う風に。で、この二つの事項を挙げましたけれど。この『妙法・経(妙法・経観世音…門品偈)』の観音様のお話。二つの、この現代の私の体験と、それからホータンの国の王女様の話し(を)合わせてほぼこれは間違い無いと思います。だから、何かあった場合にはただ「南無観世音菩薩、南無観世音菩薩」と。ただそれだけを願えば必ず難を避ける事が出来ます。その時は但し、お金儲けの為にとか(笑)、戦争に勝つ為にとか、これはダメ。人を殺してしまうし。ただ純粋に慈悲を持って生きている方には、必ず観音様のお力が来るはずですよ。

今回も結局、観音様のお力によって非常に有名な海潮音瞑想と言うのがあるわけ。観音様の瞑想法によって阿弥陀の国が観えます。法然様の場合は、私が見た『浄土三部経』の中で見たら、どうしてもカシナの水の瞑想と太陽の瞑想が混ざった様な感じだったけれども、ただ阿弥陀様の名号を一万回唱えながらずうっと…。分かりません、何カ月やったか。そしたら水が観えて、そして太陽が観えて、その水が緑色になって、そこに氷がスッと立ったと。で阿弥陀の国が観えたと。私の場合は、その海潮音瞑想法、潮(しお)を観ていたわけですよ、ずうっと。そしたら、その経典を覚えていたものだから、結局海がそのうちに真ん中が緑色になって氷が出て来たわけ。で私の場合はそこに飛び込んで行ったら、やっぱり阿弥陀の国が観えました。ただし私の場合は第四禅定でやりました。ただし第四禅定じゃなくても、たぶん一心に帰依した方にはそういう現象が起こると思います。

観音様によって私達は能く空を観て浄化する、それには絶対的な帰依がなければ

と言う事で今回、観音様のお経を皆さんにお渡ししたいと言う事で今印刷して持って来て…。来てまた話が長くなりますけど。じゃ、さっき言った様に同じ人間が悪魔にもなると。聖人もなると。それを聖悪同根(しょうあくどうこん)と言います。聖人も悪人も実は同じだと。本来同じであると。どうして人殺して人の命を取って、ね。臓器を盗る様な人間と私達がこうして一生懸命する人間はどうして同じなのかと。根(こん)は一緒でもこの根を精進して行くか行かないかの問題であるわけ。

だから、悟空。孫悟空の悟空でしょう？悟と言うのは悟り。空を悟る。そして、八戒は悟能。能く我を知ると、悟ると。そして、河童は悟浄。我を清くすると。だから、「悟、空、能、浄」と。

観音様によって私たちは能く空を観て浄化すると、能く浄化すると言う事なわけなのです。観音様のお力によって空を観て、能く、私達は『清浄道論』の様に浄化しますと。と言う凄い事なの。もちろん法随観でやれば良いけど、殆んどの人がそういうチャンスも無いし、また心随観にしろ、受随観にしろ、結局カーヤヌパッサナーの身随観にしろ、もうこっちの方に伝わってないですからね。ただ観音様のお力によって、そういう力が無くてもそういう体験が出来る。だから、空を観る神髄は絶対に観音様の帰依をしなければいけないわけです。それを聞いた事ありますか？無いでしょう？そこが大問題。

何故これが私に分かるかと言ったら、韓国を旅していたら比丘、比丘尼必ず「南無観世音、南無観世音」。必ず言うわけです。「南無観世音菩薩、南無観世音菩薩」、相手に向かって。全てが観音。絶対的に帰依しているわけ。で私の体験上で、やっぱりこうやっていったら、この観音経の通り「念彼観音力 釋然得解脱」が発生したわけ。

と言う風に『法華経』読まなきゃいけないけれども、結局、経典の『法華経』では無理なわけですね。こういう経典があっても素通り。だから『法華経』と言うのは伊達に、その『法華経』で凄い、凄いと言う名前、それではなく、内容の「この観音様に絶対的に帰依した場合には解脱が起こりますよ」と。「悟りが起こります」と、言うメッセージが西遊記なわけです。孫悟空からずうっと。それが面白おかしく、結局仏教、道教、儒教三つ合わせるから中国では誰でも読んで、やっぱり私が中国を旅行した時、朝から晩まで何処行っても「ナムアビダブ、ナムアビダブ、ナム…。全部、南無阿弥陀仏。もちろん台湾でもそうだし。

法を持ったお坊様が出れば、その国は助かる

と言う風にもう仏教 2000 年の歴史でもう心に沁み渡っているわけですね。それで政府は「お寺に通うのちょっとおかしい」と。結局何て言うのですか？その共産党で「一切宗教はおかしい」と。「麻薬と一緒だ」と。まあ ISIS 見たら特にそうですね（笑）。「でも、本当は仏教は違うのです！」と言う事を私は熱心に説いて回りました。知っている人。でも「やあ、やあ、やあ」ってドア閉めて、ドア閉めて、ずうっと。でも、感ずる事があるみたいで。

で今の中国の首相は最初の博士号の首相なのですね。で彼は堂々とお寺をお参りするみたいです。でその首相がお寺にお参りするからと言う事で、一般の人は今皆お寺参りして、益々仏教が流行っているみたいです。但し問題は先生がやっぱりあっちにもいないみたいです。昔の共産党が「宗教はもう麻薬だ」と言って、結局全部廃止して先生がいなくなったでしょう？それで逃げた先生方が結局あの仏光山、台湾に逃げてあの台湾は凄い仏国でしょう？やっぱり私も行っても「凄いものだなあ！」と思いましたがよ、本当に。

で特にあのシンガポールもやっぱり凄い仏国で、全ての政治家は先代のお坊さんのところに行って、全て「どうしたら良いか？」と。「経済はどうしたら良いか？」と。「政治はどうしたら良いか？」と。「IMF で今潰れそうで、どうしたら良いのか？」と。で偉い御坊様が全部教えて行くわけです。でその方は 2300 の舍利を出したそうで、私もその博物館の館長様に案内されて、で特別に見せて貰いましたが。もちろん、星占いもやります。アストロジー (astrology) もやります。それから道教のそういう秘法を使って未来も観ます。

と言う事は伊達にね、私みたいな普通の人間がやってもダメなわけですね。そういう偉大な人達がやるのはもう的確に未来を予言していて、方針を決めて行くわけですね。但し、そういう風に修行されて持った眼で、天眼通でやる場合と、ただアビニヤ(神通)だけ求めてやる場合とは、やっぱり結果が大いに違うと思いますよ。何故かと言ったら、シンガポールは今世界の経済の中心で、押しも押されぬ様になっているでしょう？その経過を見たら、全てこのお坊さんの指示によって出来上がっているわけ。

だから、偉いお坊さんを出せばその国が助かるわけです。どんなに科学的・政治、科学、理論を持って、どの国でも成功した国は一つも無いわけです。あれだけの世界の栄華を

誇った共産主義の理論政治をやったけれど、今ダメでしょう？それにアメリカもまた理論経済学、政治やっていますけれど、もう崩壊寸前でしょう？やっぱりそこに本当の心を観る人間が無ければ、結果的には崩壊に繋がって、骨折り損のくたびれ儲けという国自体がなって、そのしわ寄せのツケは国民に来ます。

だから、達磨大師様が歯を二つ折ったでしょう？今でも中国ではその唄があります。その時に歯を飲み込まなければ何百万という人が死ぬわけです。干ばつを起こします。だから私達は非常に浅はかに教えられて、実は浅はかじゃないのです！実はスーパー、スーパー生命体であるのだけれども、それをちゃんとその蓋取ってしまえばみんな天界に行ってしまうから困る生命体もあるわけです。誰も働いてくれないし、生きて行けないと。いつもお世話して貰わなきゃダメと。それで昨日も言った様に全て幕張りって、幕張り幕張りで「見えない様に、見えない様に」と。で今こういう風な観音様のお話を真摯に受け取った方は、やあ、もう本当に嬉しいと思いますよ。こういう話聞いて。でこういう話を全日本国にしたら、ちょっと、その一般の国民は救われるけれど、逆に困る方達がおると思います。いっぱい。働いてくれなきゃ困りますから。(笑)

テレビもないけれど法のある国、かたや法のない国、アメリカは殺戮そのもの

で、何回も言いました様に、モーラマインの近くのその村ではテレビも無いのです。道路も雨が降ればグチャグチャ。でクーラーも無し。でも、その家に呼ばれた時には天然のクーラーで実に爽やかでした。で泥棒一人も無し。何時もドアを開けて誰でも入って行きます。そして、テレビとかそういう物を欲しい為に働くくらいで、食べ物があるから働く気は無いわけです。で何が楽しみかと言ったら、お経を読む事、お経の話聞く事、お寺を廻る事、と。そう言っていました。まあ、これが全部ではないと思います。ただその村ではそうらしいです。

また、アメリカではね、政府の言う通りに行ってアフガニスタンに行って人を殺して帰って来るわけです。そしたらこの兵隊達が殆んど頭狂ってしまうみたい。薬では治せないから。それで、負傷した兵隊もいっぱい来るわけです。戦場で戦死と言うのは即死。1秒でも、2秒でも生きて手で触った場合には負傷兵になるわけです。だから、第一次イラク戦争でアメリカ兵が実際に死んだのは7万6千人。プラスその十倍の本当の負傷者。もうアメリカに兵隊はいないのです。他所の国へ戦争させるしか無いわけ。若者を使って。

だから、今アメリカの国境警備隊はもう殆んどいないって、誰も。この国境警備隊の仕事は国立公園を守ったり、人を入れないという禁止区域あるでしょう？もうがら空きで何処でもキャンプ出来ると。と言う風にアメリカの人が言っていました。で仕方がないから、今度は結局コンピューターゲームを使ってロボットで人を殺すしか無いわけです。ドローン。あれは結局空中ロボットで人をドンドン殺して行く。でその操作する人も殺した場合には何か頭がおかしくなるらしい。その空軍の本部はラスベガスにあるらしい。そこから全部見て、操作するらしいですけどね。でそういう風な「パイロット」と名前付けてね、そのドローンを、で非常に持ち上げるらしいです。でも、殺してるうちに気持ちが悪くなってやめるでしょ？成り手がいないわけです。誰だって人を殺したくないから。

今度は新しいプログラムを作って、「キル」と言うプログラムか知れませんが？それはプログラムがプログラムを直して行くらしい。人間と同じ、もはや。その何て言ったかな？アーティフィシャル・インテリジェンス・ロボットと言う『A.I.』とかロボット映画観たはずですけども。それが現実にしてもう造れるらしい。と言う事を、結局・もう戦う人間がいらないから。で結局機械がロボットをコントロールする時代がもはや始まっています。何故かと言ったら、空港に行ったらね、アメリカの空港に行ったら、前は人間が怖い顔をして見るわけです。今は自分で申告して、機械が「ダメ」って言ったら行けないわけです。それで、幾ら機械(に)「いや違う」って言ったって、機械で「ダメ」って。だーれも人間いないから。まだ人間がそこに一人でもいたら

でこれが結局ヘリオポリスのエジプトにも繋がります。それからインカの文明。それから現代チベットの文明。この仏教のこの教えには壮大な繋がりがあられるわけです。

まあ、後は、この続きは明日。と言う事でゆっくり休むか、このまま瞑想を続けて貰って。まあ、頭がクラクラしますか？ホントはもっとクラクラする話が続くのだけれども。その中の少し波の柔らかいとこ話したのです…。

『妙法…經觀世音…門品偈』読経

でこの中の「梵音海潮音」であるでしょう？この「梵音禪海潮音」を出来れば皆さんにお授けしたいと思います。これがさっき言った『海潮』を観て下さい。と、その公式。私これさっき説明したけれど、このお経(の)ここ読んで無かったのです。そしたら、「あら、あ、観音様の教えてくれたこの瞑想法、ここに『梵音海潮音』ある。

ま、そういう事で。はい、今日は、またまた奇想天外な話しばっかりだった…それで今日はおやすみです。



水源禅師法話集 59
(2016年9月18日大阪合宿2日目)

2017年1月25日 発行

編集兼発行 一乗禅の会